

構造センス育成講座 第4回 近代建築の五原則

20世紀を代表する建築家に、ル・コルビュジェ（Le Corbusier）がいます。コルビュジェが活躍した20世紀は「鉄筋コンクリート」が建築に使われ始めた時代です。コルビュジェは「鉄筋コンクリート」と言う構造体を使う、新しい建築の形を5つの要点にまとめて提唱しました。

それが「近代建築の5原則」で、その5原則とは、以下です。

【近代建築の5原則】

1. ピロティ
2. 屋上庭園
3. 自由な平面
4. 連続水平窓
5. 自由な立面

この「近代建築の5原則」にある、ピロティや屋上庭園などは、現代では多くの建物に採用されていて、一般的な建築様式と思います。特別感があまりなく、当たり前のことのように思いますが、新しく提唱された事柄は、現代の基準で考えるのではなく、提唱された当時の時代背景を考えることが大事と考えます。コルビュジェが「近代建築の5原則」を提唱した時代は「組積造」が一般的な時代です。従来の「組積造」では実現することが出来ず、「鉄筋コンクリート」を使うことで“初めて”実現可能となった建築様式なのです。



近代建築の5原則を兼ね揃えた建物に、1931年竣工の「サヴォア邸」（写真）があります。フランスのパリ郊外に建つ住宅で、コルビュジェが設計しました。コルビュジェはサヴォア邸で、自ら提唱した5原則を、高い完成度で実現しました。

※5原則を初めて実現した建物は、1926年竣工の「クック邸」ですが、こちらの「サヴォア邸」の方が完成度が高く有名です。



【写真：サヴォア邸】 撮影：早田寛